

下条川の生物調査にあたって

福田 保

An outline on the survey of Gejogawa River and its watershed, Toyama-shi and Imizu-shi, Toyama Prefecture, central Japan

Tamotsu Fukuda

富山県生物学会では県内の生物相を明らかにするとともに会員相互の連携と研鑽を促すことを目的として、2006年（平成18年）より共同で生物調査を実施してきた。県内を新川、富山、高岡、砺波の4地区に分け、順に比較的小規模の河川流域を中心とした地域を指定して実施している。これまでの9回は以下のとおりである。

- 第1回 2006年砺波地区 南砺市（平村）猫池
- 第2回 2007年新川地区 魚津市角川
- 第3回 2008年高岡地区 氷見市余山川
- 第4回 2009年富山地区 立山町栃津川
- 第5回 2010年砺波地区 小矢部市洪江川
- 第6回 2011年新川地区 入善町舟川
- 第7回 2012年高岡地区 氷見市仏生寺川
- 第8回 2013年富山地区 富山市黒川
- 第9回 2014年砺波地区 南砺市山田川

本年度の調査地域はこれまでの順に従うと新川地区であるが、過去9回をみると県の中央部が未調査なので、今年度は射水市の下条川を選定した。

下条川は、富山市婦中町吉谷（よしたに、標高約85m）を源とし、射水丘陵と射水平野を約18km北流し、新湊地区片口で富山新港に注ぎ込む二級河川である。支流は北陸自動車道小杉ICそば（河口から約10km、海拔約10m）で右岸側から浄土寺川（じょうどじがわ、流長約5.0km）、酢川（すがわ、流長約2.5km）、前田川（まえだがわ、流長約3.5km）、左岸側から堰場川（せきばがわ、流長約4.0km）などがある。

かつて射水平野は浅海で、河口部には万葉の時代には「奈呉の江（なごのえ）」として詠まれている景勝地があった。その後も庄川・下条川・神通川からの土砂が運搬されて埋められ「放生津潟（ほうじょうづがた）」を形成したものの近年まで

泥沼化した超湿田地帯であった。過酷な農作業と風土病に悩まされつつも、明治・大正と乾田化事業は実施され、さらに昭和38年から昭和51年に国営の灌漑排水事業で圃場整備とともに、排水機場や用水などの整備で乾田化は完成した。水郷景観のタズルやイクリなどの板船、畔補強と稲干用のトネリコの並木は姿を消していった。放生津潟は昭和43年に富山新港として開港し、平成24年には新湊大橋が完成した。

上流の射水丘陵の地質は中生代第三紀の泥岩層で、下流の水田の水確保のために多くのため池が整備されてきた。現在は、平野部の東西からの用水整備が進みかつての水確保の心配は少なくなった。また縄文時代の遺跡もみられ、かつての海岸線が丘陵端近くにあったことを想像できる。またこの県央地域は、近年大きく発展変貌し、昭和39年日本海側最大級の太閤山ニュータウン、昭和50年に北陸自動車道が開通し、流通業務団地も形成されてきた。今年3月には小杉地区下流を東西に北陸新幹線も開業運転した。

今回の調査項目は植物（森林群落構造）、水生昆虫、底生無脊椎動物、魚類、両生類・爬虫類、哺乳類である。合同調査日は2015年6月28日と9月26日としたが、調査日の追加や調査地点・方法はそれぞれの調査グループに任せた。

最後に、今回の調査にご協力いただいた地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

（富山県生物学会副会長・企画幹事長）

引用文献

水上義行. 1994. 下条川. p.573. 富山大百科事典編集事務局（編）富山大百科事典. 北日本新聞社. 富山.

下条川流域の風景



上流（富山市婦中町吉谷）



ふるさと大橋より北陸新幹線（旧小杉町戸破）



新新屋橋より（旧小杉町青井谷）



河口の少童橋より新湊大橋（旧新湊市片口）



堰場川との合流点（旧小杉町宿屋）



立神池（旧小杉町青井谷）